

## 令和6年度 第1学期終業式 式辞(R6.7.24)

校長 杉本 和博

この1学期は4月4日の始業式・8日の入学式に始まり、今日7月24日まで2・3年生が76日間、1年生は74日間でした。

私から何度も伝えていることですが、皆さん、この1学期に成長できましたか？

今日の式辞ではこの「成長すること」にフォーカスします。そしてこの話で最も伝えたいことは、「1学期の自分を振り返ることで、夏休み・2学期を充実させてほしい」ということです。

4月の自分と今の自分を比べてください。成長できたでしょうか？ 小学校が違う友達がたくさんできました。「14歳の挑戦」を経験して「働くことの意味」を考えるようになった。中には、部活動で好成績を収め北信越大会・全国大会へ駒を進めた人もいます。一方、友達との関係で修復できない亀裂を生んでしまった人、「失敗したなー」と思うことがある人もいるかもしれませんね。

人は常に変化していく存在で、今の自分は4月の自分とは違っています。そして1学期の過ごし方が今のあなたを作っているのです。もし今の自分に満足できない人がいたら、他人と過去は変えられない以上、自分で未来を変えていくしかないのです。

私は、その時に最も大切なことは「自律」だと思います。その意味は「自分で自分のわがままをおさえて行動すること」と辞書にあります。この「自分のわがままをおさえる」って一体どういうことでしょう。

サッカーの選手が現役時代に唐揚げを食べなかったという話は、皆さんも耳にしたことがあるかもしれません。将棋の世界では永瀬石矢王座が年間5,000時間（1日平均13h42m）を研究に使っていると聞きます。しかし私は、決して「自分の気持ちを抑え込む」といった「白か黒か」「0か100か」「ONかOFFか」の二者択一のようなことではなく、黒と白の間に色々な濃さのグレーが並ぶグラデーションのようなイメージだと思っています。100%自分のわがままをおさえられる人なんていないだろうし、もしそんなことをしたら心が壊れてしまいます。今の自分の現状をしっかりと理解し、苦しすぎず楽すぎない程度に「自分のわがままをおさえる」こと、つまり「自分をコントロールすること」が、必ず自分の成長に結びつくと思います。がんばれるかどうか勝負する相手は、自分の中にいる「わがままな心」だと言えますね。

ところで、折角の機会なので「成長」についてお話をしたいと思います。皆さんの多くは、中学校卒業後に高校へ進学していきます。もちろん高校生は、中学生と比べ求められるものが高くなっています。だから中学校の3年間で、それに見合った「成長」を遂げなくてははいけません。「心・技・体」それぞれの面で求められる水準に達していなくては、高校生になることはできませんが、そこまでに至る成長の様子は人それぞれです。中1から努力を怠らず、早い時期から自分を高める人、中3になってようやくエンジンがかかり何とか希望の進路に進めた人。そして同じ様に中3でエンジンがかかったものの、とき既に遅く希望の進路を逃してしまった人もいるかもしれません。しかし、中学生と高校生の限られた範囲で見ると結果が決まってしまった様に捉えがちですが、高校生よりもっと高い水準が求められる大学生、そして更に先にある社会人と考えて見れば、高校受験はその通過点でしかありません。一番大切なことは、自分をコントロールできる力を身に付けること、そしてそれに加えて「成長の歩み」を止めないことです。

もう一度最初に戻りますが、私は「1学期の自分を振り返ることで、夏休み・2学期を充実させてほしい」と伝えたいのです。8月27日の始業式の日、自分で満足できる自分であるため、この33日間の夏休みには、確実な「成長の歩み」を重ねてください。